

公益財団法人 檉の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 5 月 30 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人東京こどもホスピスプロジェクト		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	東京都昭島市		
④責任者氏名	佐藤 良絵	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	石田 道代	(役職名等)	事務局

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-036	⑦助成金額	99 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	病気を抱える子どもへの学習支援活動				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	東京こどもホスピスプロジェクト（オンライン学習） 東京都昭島市昭和町 5-10-16 森高ビル 2 階の内北側				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

長期入院等で学習に遅れが生じている高校生、中学生に対し、その対象者の心身状況に応じ、オンラインにより、個別に伴奏型学習支援を行った。

疾病により体調を崩すこともあるために、学習支援中に体調を崩した際にはすぐに適切な対応ができるために、看護師との連携を図りながら行い、また、その日の体調に合わせて学習内容や実施時間等を調整しながら行った。

伴奏型学習支援を継続して行うことでつぎの事例がみられた。

- ・闘病により学習に遅れを生じていた対象者が漢字検定合格を目指して学習を継続し、目標としていた級に合格した。そのことにより意欲が向上し、さらに上の級を目指して学習を継続。
- ・学習支援で遅れていた勉強を取り戻しながら試験勉強を行い、志望校に合格。合格後も、高校での勉強につなげるために、学習支援を年度末まで継続して、数学および英語の基礎を復習した。
- ・英語が苦手であったが、学習支援で英語を中心に行うことによってリーディングに慣れ、文章理解も深まった。また、志望校の面接に向けて面接練習なども行い、自信をもって試験に臨み、見事志望校に合格した。合格後も、年度末まで継続して英語の復習を行い、高校での勉強に備えた。
- ・入院、闘病により特に数学の勉強が遅れ、学校での勉強の流れについていけなかったが、個別に 1 問ずつ丁寧に行うことにより、問題の理解ができ、定期試験に臨むことができた。塾に行くには体力に自信がないためにご本人の体調、ペースに合わせて行うことができる伴奏型学習支援がよいとの声が聞かれた。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	137	2.5 時間	342.5	移動時間、料作成や学習内容事前確認の時間も含む
高校生等	8	2.5 時間	20	資移動時間、料作成や学習内容事前確認の時間も含む
大学生等	0 名	0 時間	0	
学習支援員等	145 名	2.5 時間	362.5	
その他	145 名	1.4 時間	203	体調不良になった際の看護師の待機時間
合 計			928	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

法人・団体名：特定非営利活動法人東京こどもホスピスプロジェクト

作成者 氏名：石田道代

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

小児がんや難病等の生命を脅かす病気（LTC）のこども達は、闘病のための長期入院などにより学習に遅れが生じることがある。しかし、闘病中の子どもたちへの教師派遣等の学習支援がほとんどされておらず、退院後学校に通えるようになってからも授業の学習についていけないことがある。また、感染リスクもあり、体力の低下や体調の波もあるために塾通いは困難である。そこでこどもが病気になっても当たり前のように学び、学ぶことにより、自信を持ち、学校での生活を楽しみ、いきいきと過ごせるよう、学びを支援していくことが必要である。

そのため、長期入院に伴う学習に遅れが生じている小児慢性特定疾病児童等に対し、学習支援を実施し、授業の学習についていけるように支援することを目的に行う。

対象のこどもの状況に応じて、学習時間（30 分～1 時間）や学習内容を定め、本人の希望および学習の必要性のある事を考慮して学習内容を定め、学習支援した。

2. 実施した奨学活動の詳細

- ・活動内容の詳細については別紙参照。
- ・参加人数は延べ 145 人
- ・当法人ホームページやチラシ等で学習支援を行っていることを周知した。
- ・学習支援員については、今年度当法人の行う学習支援を担当できる人材を育成するための資格運営研修を開催し、4 名の方が修了した。
- ・対象者に合わせて、主に、既存のテキストを用いる、ネットで活用できるテキストをダウンロードして活用する、対象者が現在使用しているテキストを用いる等した。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

闘病により学習に遅れを生じていた対象者が、伴奏型学習支援を継続するうちに、学習の遅れを取り戻し、成績が向上し、ご友人との付き合いも広がり、生活全体の活動の幅が広がり、学習支援を終了する、学習支援で遅れていた勉強を取り戻しながら試験勉強を行い、志望校に合格するなど、学習支援の目的としていたことが体现された。個別に対象者に合わせた学習支援をすることで対象者にとって効果的な学習ができたと考えられる。

しかし、講師が各々手探りで対象者の心身状況や学習状況をその都度確認しながら行っていたが、今後、支援のスキルを高めるために、実際の対応について支援者同士がさらに情報共有し、根幹となる実施方針、支援方針等を明確にしていく必要があると考える。そのことにより、対象者によりよい支援をすることにつながると考える。

また、この学習支援の活動について、講演会等を通じて周知する、学習支援を受けているこどもたち同士の交流を図る等も今後の活動を広げていくことにつながると考える。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

当初学習支援を必要としていた対象者が、学びたいという意欲をもち、学習支援を受け、また、体調を崩し、休みとなることもありながら学習を根気よく継続し、その結果として、学習能力が向上し、活動の幅が広がり、学習支援から卒業していくということはとても感慨深いものがある。漢字検定にもチャレンジして合格しさらに次のステップに進む、間違っても繰り返し計算する等こども達の学びたいという気持ちの強さ、熱心さに感銘するとともに、こども達にとって学ぶことが非常に意義の深いものであると思う。

今後もこども達に寄り添い、学習支援し、学力が向上することにより自己肯定感を高め、自信をもってさらに一人ひとりがいきいきとして、世界が広がることにむすびつくような学習支援をしていきたいと考える。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）